

カムイとアイヌ：自然との精神的な調和

アイヌの精神文化の中心には、物質界と精神界の調和に対する深い敬意があります。アイヌは、動物、植物、自然現象、そして物に至るまで、自然界のあらゆるものに「ラマツ」（魂）が宿ると信じています。その中でも、一部は「カムイ」（神々）として崇拝され、（動物、植物、天候、そして道具などの一時的な姿で）人間界を訪れ、肉や毛皮、織物や木工の材料など、生存に不可欠な贈り物をもたらすと考えられています。

これらの贈り物への返礼として、アイヌは「カムイ」との互恵的な関係を維持するため、儀式を

執り行い、供物を捧げます。最も崇拝される「カムイ」の中でも特に重要なのは、山の神（キムンカムイ）であるヒグマと、村を守護する神（コタンコロカムイ）であるシマフクロウです。

「イオマンテ」の儀式は、「カムイ」の霊をその世界へ送り返す儀式で、アイヌ文化における最も重要な儀式の一つです。この数日間にわたる儀式には、祈り、歌、「カムイ」を楽しませるための踊り、そして感謝の供物が含まれます。「カムイ」は敬意を持って送られ、新たな贈り物と祝福をもたらして人間界に戻ってくることが期待されます。